



災害の経験をどう継承するか ：能登半島地震の実態から

日本環境会議第39回東京大会 2024/09/22

分科会4 令和6年能登半島地震が提起した複合災害の問題

高原耕平（人と防災未来センターリサーチフェロー）

写真：石川県能登町（2024/1/31発表者撮影）

自己紹介：高原耕平

- 1983年 神戸生まれ
 - 神戸大学工学部情報知能工学科 **中退**
 - 大谷大学文学部哲学科
 - 大阪大学大学院文学研究科・ **臨床哲学**研究室
 - 博士（文学）
- 人と防災未来センター（2019-2023）
 - 阪神淡路大震災の「震災学習」と記憶伝承
 - 減災システム社会の技術論
- 国土技術政策総合研究所（2024-）
 - 河川研究部 水害研究室 「流域治水」の人文学的研究
 - <https://researchmap.jp/takahara1983/>



国土技術政策総合研究所



- ・上下水道研究部
- ・土砂災害研究部
- ・道路交通研究部
- ・道路構造物研究部
- ・建築研究部
- ・住宅研究部
- ・都市研究部
- ・港湾・沿岸海洋研究部
- ・空港研究部
- ・河川研究部
 - ・河川研究室
 - ・海岸研究室
 - ・水循環研究室
 - ・大規模河川構造物研究室
 - ・水害研究室



人と防災未来センター西館1F
(2022年1月13日発表者撮影)

災厄関係ミュージアム（自然災害...

表示回数 1 回
 最終編集: 21 分前

レイヤを追加
 共有
 プレビュー

☒ 戦災関連

個別スタイル

- 広島平和記念資料館
- 長崎原爆資料館
- 東京大空襲・戦災資料センタ...
- 戦没した船と海員の資料館
- 沖縄県平和祈念資料館
- 長岡市 長岡戦災資料館
- 知覧特攻平和会館
- 大和ミュージアム（呉市海事...
- 姫路市平和資料館
- ピースおおさか 大阪国際平...
- 滋賀県平和祈念館
- 戦争に関する資料館
- 静岡平和資料センター
- 岡山空襲展示室
- 平和と人権資料館
- 舞鶴引揚記念館
- ホロコースト記念館
- アウシュヴィッツ平和博物館
- 杉原千畝記念館

☒ 公害関連

個別スタイル

- 水俣市立水俣病資料館
- 水俣病センター相思社
- 水俣市立水俣病資料館
- 公益財団法人公害地域再生セ...
- 富山県立イタイイタイ病資料...
- 四日市公害と環境未来館
- 北九州環境ミュージアム
- 田中正造記念館
- 環境と人間のふれあい館

☒ その他

個別スタイル

- 国立アイヌ民族博物館



社会的背景: 災厄をめぐる「記憶」意識の拡大(国内)

～1990年代	<ul style="list-style-type: none">□ 戦争体験・証言の収集活動□ 「平和博物館」の層的成立（福島2021）
1995年～	<ul style="list-style-type: none">■ 自然災害の「記憶／教訓／伝承」を重視する言説・実践の増加<ul style="list-style-type: none">■ 手記集、追悼、記録収集、報道、防災教育■ 災害ミュージアムの建設<ul style="list-style-type: none">■ 雲仙普賢岳噴火、奥尻島津波、阪神淡路大震災
2011年～	<ul style="list-style-type: none">■ 記憶実践・記憶空間建設の<u>定着</u>、<u>社会的促進</u><ul style="list-style-type: none">■ 語り部、伝承碑、災害遺構、ミュージアム、関係行事■ 既存伝承碑への着目■ 若い世代の参画



旧荒浜小学校遺構
(2021年12月発表者撮影)



神戸市長田区の追悼行事
(2022年1月発表者撮影)

近年の事例



橋桁ごと流され、球磨川に横たわる第2球磨川橋りょう。右奥に見えるのが橋脚（昨年12月、熊本県球磨村で）＝内村大作撮影

<https://www.yomiuri.co.jp/pluralphoto/20210615-OYT1I50052/>

2020年7月熊本豪雨

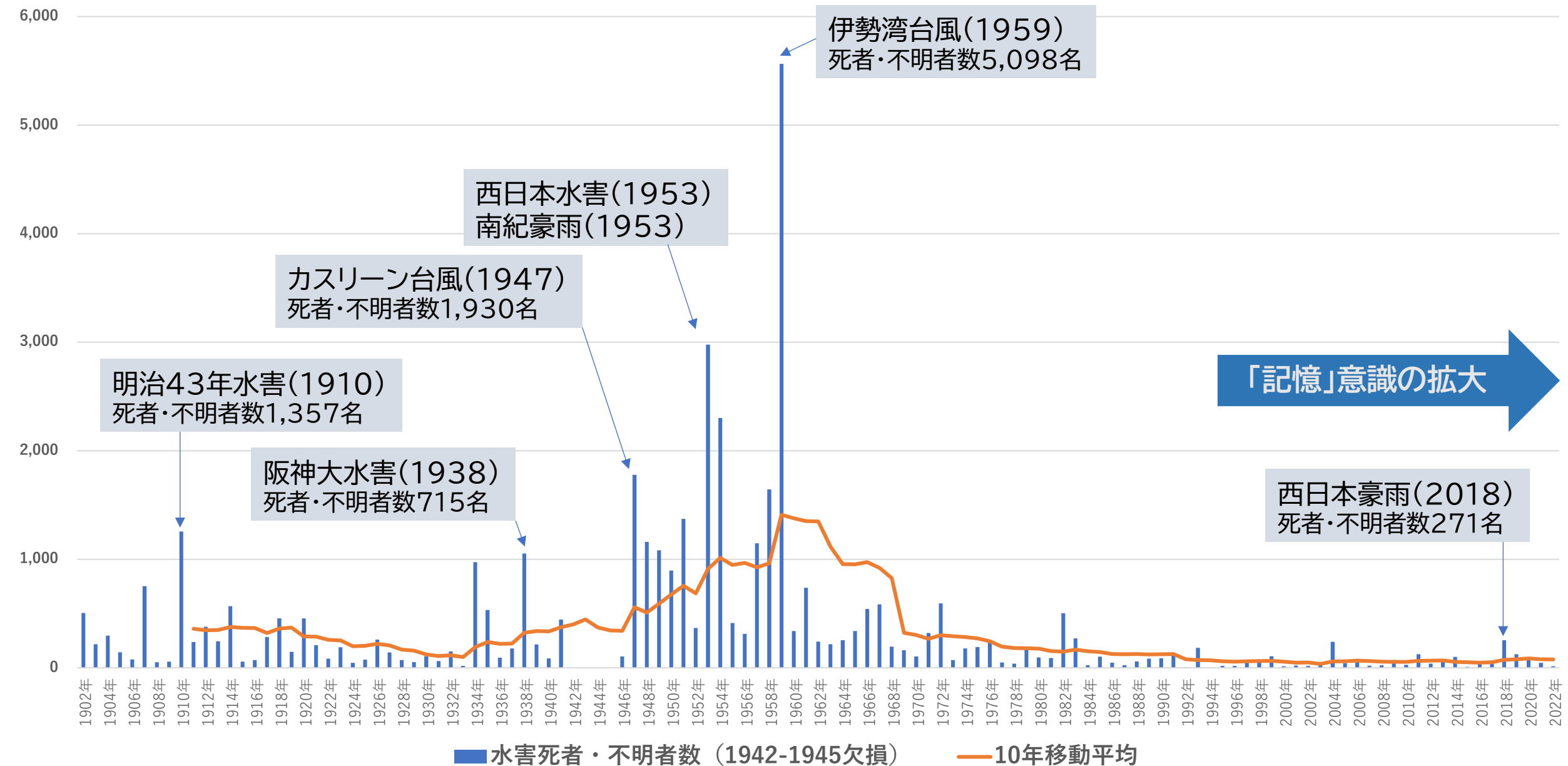
- 熊本県球磨村では死者25名
- 「第2球磨川橋梁」を村が遺構化



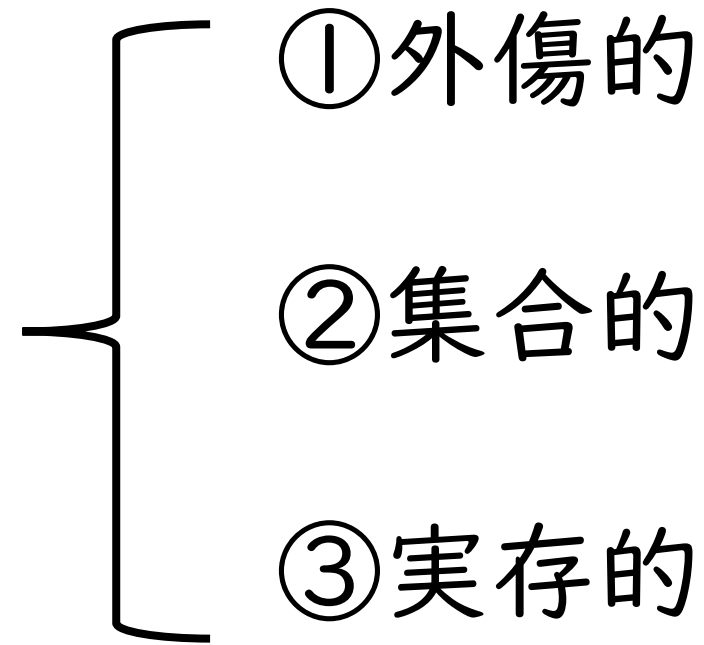
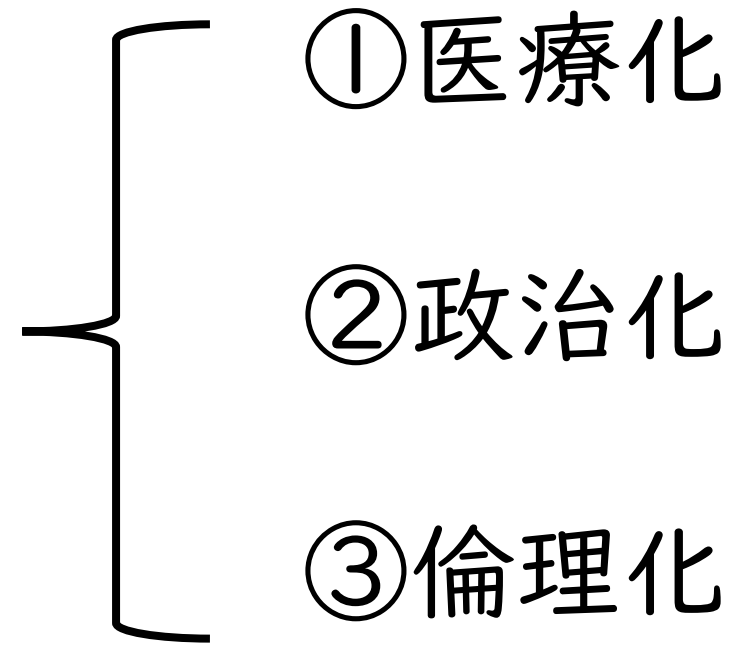
2014年8月20日豪雨

- 広島市安佐南区等で死者77名
- 2023年災害伝承館が開館

社会的背景：災厄をめぐる「記憶」意識の拡大(国内)



災厄の記憶をめぐる変化



災厄のミュージアムの理想と現状

ミュージアム全般	基本的な機能	「資料の収集」「整理・保存」「調査・研究」「展示・教育」
災厄のミュージアム	標榜している役割	<p>①その災厄から生まれた普遍的価値の表現・実現・伝承</p> <ul style="list-style-type: none">・「防災」「平和」など <p>②その災厄の実態の表現・伝承</p> <ul style="list-style-type: none">・被害実態、復興状況、社会的歴史的背景、死者や生存者の状況、証言など <p>③その災厄が生じたという事実それ自体の証示</p>
	本質的な役割	■ 復興・回復・和解の時間的・空間的結節点 ＝地域再生・伝承・学習・物語化の <u>原動力</u>
	現状	<p>■ 機能の多軸性を反映した理念・方法の不足</p> <p>とりわけ自然災害のミュージアム：「学習」が先行し、物語を固定</p> <p>■ 「災厄」概念を中心とした連携の不足</p>

対話＝「災厄の表現の有意意味な不安定化」

「表現の不安定化」

- いったん与えられた表現が唯一確定のものとされず、破棄されうるもの・暫定的なもの・あらゆる可能な表現のうちの一つにすぎないものと位置づけられること

「表現の有意意味な不安定化」

- その表現に接した来館者や地域コミュニティや社会が、災厄から半身をひきはがすことができるような新しい表現の可能性を得ること
 - 災厄を完全に過去のもの、自分から切り離された外部のものと位置づけることはできないにしても、その災厄と自分との関係を捉えることができるほどには両者の隔たりが確保されること
 - とりわけその隔たりが解釈や言語化その他の表現によって維持されること

(高原・正井・林田2023)

災厄のミュージアム／記憶実践が対話的であるために

- ① 身体性 = 「見る」「だまって聞く」より、からだと感覚とことば全体で関わる
- ② 包摂性 = あらゆるアクターを記憶の政治学に招き入れる
- ③ 当事者性 = 個々人の記憶・体験・身体と、災厄との関係を原点とする
- ④ 安全性 = 身体・感情・知性の安全が保たれた場をケアする

- ⑤ 探究的 = 災厄をめぐる、答えが容易に定まらない問いを引き受ける
- ⑥ フォーラム = ミュージアム自体が対話の場かつ変容の主体となる
- ⑦ 再帰性 = 相互作用自体をアーカイブする
- ⑧ 可塑性 = 機能・目標、建築様式に至るまで再構成しうる

能登半島地震の実態から

①「記憶と継承」というモデルで良いのか

②「回復と養生」の視点

- 1995/2011型の継承・伝承活動 = 言語化による遠心的波及
- 被災地・被災者の回復・養生に直結する記憶実践

③記憶空間・記憶実践のあり方の再考

- 身体性と追悼の重視を